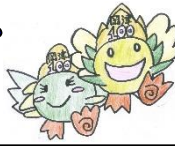




# 岡津



令和元年度のキーワード

「つなぐ×3 そして、もっとその先へ・・・」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okazu/>



学校だより 6月号  
令和元年5月31日  
横浜市立岡津小学校  
校長 宮路 ますみ  
TEL 811-4104  
FAX 812-4586  
(岡津小HPのQRコード掲載)

## 時間を思う～豊かに生きていくために～

学校長 宮路 ますみ

もうじき梅雨の時期を迎え、新緑の輝きにもどこか潤いを感じられる今日この頃です。

6月10日は「時の記念日」です。「日本書紀」によると、671年に天智天皇が日本で最初の時計を作りました。その時計は、水が落ちることによって時間を計る水時計だったそうです。その時計が動き始めたのが6月10日だったので、この日が「時の記念日」として制定されたようです。

人は誰でも平等に24時間が与えられていますが、それをどう使うかは個々に委ねられています。ある人は、その中にたくさんの予定を詰め込んで秒刻みで生活し、またある人はのんびりと雲を眺めながら1日を過ごす。どちらも同じ24時間ではありますが、それぞれの生活はかなり違ってきます。与えられた時間をどのように消費するかは、その人の生き方によって決まってくるものです。言い換えれば、価値観の違いが時間の使い方に表れるのだと思います。

「時間」とは何かを私に考えるきっかけを作ってくれたのは、ミヒヤエル・エンデという作家の書いた「モモ」という童話でした。どの学校の図書室にも必ず置いてある児童文学の名作です。

大きな都会のはずれにある小さな円形劇場の廃墟に一人の女の子が住みつきました。名前は「モモ」。この女の子は、いつしか街になくってはならない存在になっていました。この平和な街にある日、灰色の男たちがやってきて、人々の時間を次々と奪い取っていきました。人々は次第に、時間を節約することばかりに徒勞する生活を送るようになっていました。モモは彼らの陰謀を見抜き、街の人々に大切な時間を取り戻すことができたのです。この話の中で、とても印象的な一文があります。

「時間とはすなわち生活だからです。そして、人間の生きる生活は、その人の心の中にあるからです。」

自分自身がどう生きたいのか、そして、限られた時間をどのように使うことで人生を輝かしいものにできるのか、この本を読んで大きな問いを突きつけられた気がしています。この問いは、一生解けることはないかもしれませんが、今日も自分自身に語りかけます。「豊かに生きていますか？」